平成27（2015）年
3/18
号　外

広報たいとう

発行　台東区　　編集　世界遺産登録推進室　　〒110−8615　台東区東上野４丁目５番６号
TEL　5246−1082　世界遺産ホームページアドレス　http://www.city.taito.lg.jp/sekaiisan/

**世界遺産登録推進特集号**

# 国立西洋美術館、世界遺産へ 推薦決定！

## 登録が実現すれば 都内初の世界文化遺産

### 平成28（2016）年６月の第40回世界遺産委員会での登録を目指します！

平成27（2015）年１月27日、フランス政府が関係国を代表して、「国立西洋美術館」を構成資産に含む推薦書「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」をユネスコ世界遺産センターへ提出しました。

今後、イコモス（世界遺産委員会の諮問機関）による約１年半の審査を経て、平成28（2016）年６月の第40回世界遺産委員会で登録の可否について審議される予定です。

世界遺産委員会で登録が実現すれば、東京都で初めての世界文化遺産が誕生し、文化の薫る台東区の魅力がさらに高まることになります。

国立西洋美術館 外観　　写真：国立西洋美術館

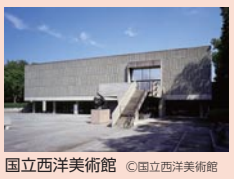
### 推薦書の概要

**推薦名称**　「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」
（L'Œuvre architecturale de Le Corbusier
—Une contribution exceptionnelle au Mouvement Moderne—）

**構成資産**

日本、フランス、スイス、ドイツ、ベルギー、アルゼンチン、インドの７ヵ国に所在する17資産

**日本（１資産）**



国立西洋美術館　©国立西洋美術館

**フランス（10資産）**

ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸
©FLC　Ph. Olivier Martin−Gambier

ペサックの集合住宅
©FLC　Ph. Paul Koslowski

サヴォア邸
©FLC　Ph. Paul Koslowski

ナンジュセール・エ・コリ通りのアパート
©FLC　Ph. Olivier Martin−Gambier

マルセイユのユニテ・ダビタシオン
©FLC　Ph. Paul Koslowski

サン・ディエの工場
©FLC　Ph. Olivier Martin−Gambier

ロンシャンの礼拝堂　©台東区

カップ・マルタンの小屋
©FLC　Ph. Olivier Martin−Gambier

ラ・トゥーレットの修道院
©FLC　Ph. Olivier Martin−Gambier

フィルミニの文化と青少年の家
©FLC　Ph. Olivier Martin−Gambier

**スイス（２資産）**

レマン湖畔の小さな家
©FLC　Ph. Olivier Martin−Gambier

イムーブル・クラルテ
©FLC　Ph. Evelyne Perroud

**ドイツ（１資産）**

ヴァイセンホフ・ジードルングの住宅　©FLC　Ph. B. Gonzales

**ベルギー（１資産）**

ギエット邸
©FLC　Ph. P.De Prins

**アルゼンチン（１資産）**

クルチェット邸
©FLC　Ph. Olivier Martin−Gambier

**インド（１資産）**

チャンディガールのキャピトル・コンプレックス
写真は議事堂　©FLC

### 世界遺産への道のり

| | | |
|---|---|---|
| 平成19年 | 9月 | フランス政府から日本政府へ共同推薦の依頼 |
| | | 日本政府が、国立西洋美術館本館を「世界遺産暫定一覧表」へ記載 |
| | 12月 | 国立西洋美術館本館を国の重要文化財（建造物）に指定 |
| 平成20年 | 1月 | 日本政府が、「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の世界遺産への推薦を決定 |
| | 2月 | 関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書「ル・コルビュジエの建築と都市計画」を提出 |
| | 10月 | イコモス（※1）による現地調査 |
| 平成21年 | 5月 | イコモスから「記載延期」とする勧告 |
| | 6月 | 第33回世界遺産委員会（スペイン）で審査**「情報照会」**（※2）とする決議 |
| 平成23年 | 2月 | 関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」として追加情報を提出（推薦書のタイトルの変更、構成資産の見直し等を行った） |
| | 5月 | イコモスから「不記載」とする勧告 |
| | 6月 | 第35回世界遺産委員会（フランス）で再審査**「記載延期」**（※3）とする決議 |
| 平成26年 | 9月 | 関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書（暫定版）「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」を提出 |
| 平成27年 | 1月 | 日本政府が、「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」の推薦を決定 |
| | | 関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書（正式版）「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」を提出 |
| | 9月頃 | イコモスによる現地調査（予定） |
| 平成28年 | 4月～5月 | イコモスによる評価結果の勧告（予定） |
| | 6月 | 第40回世界遺産委員会で世界遺産一覧表への記載の可否を審議（予定） |

※1　イコモス（ICOMOS）：国際記念物遺跡会議。世界遺産委員会の文化遺産に関する諮問機関

※2　「情報照会」決議：追加情報の提出を求めた上で次回以降に再審議するもの。

※3　「記載延期」決議：より綿密な調査や推薦書の本質的な改定が必要なもの。推薦書を再提出した後、約１年半をかけて再度諮問機関の審査を受ける必要がある。

**区長コメント**

台東区には、先人たちが大切に守り、育み、現代に引き継いできた歴史的な文化遺産や伝統芸能など、多彩な文化資源が存在します。世界遺産登録の実現は、こうした地域文化への愛着心を醸成するだけでなく、「歴史と文化のまち」台東区の更なる躍進につながるものと確信しております。

私は、国や東京都等の関係機関としっかりと連携し、世界的な建築家ル・コルビュジエが設計した国立西洋美術館が、ユネスコの世界遺産に登録されるよう、最大限の努力を傾注してまいります。

どうぞ皆様のより一層のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

台東区長　服部征夫

## ▼ 前回推薦時(平成23年)からの主な変更点 ▼

### 「顕著な普遍的価値」の説明を強化

世界遺産に登録されるためには、「顕著な普遍的価値」を有していることが必要です。

今回の推薦にあたっては、イコモスとの「顕著な普遍的価値」にかかる対話を踏まえ、世界遺産の評価基準(※1)(ⅱ)(ⅵ)に基づき推薦を行うとともに、各資産の説明を強化しました。

**評価基準(ⅱ)**
**建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものである。**

**評価基準(ⅵ)**
**顕著な普遍的価値を有する出来事(行事)、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある。**

**ル・コルビュジエの建築が全世界に与えた大きな影響力**

ある期間にわたる価値観の重要な交流を示す。ル・コルビュジエは、新しい建築の概念を広め、20世紀における世界中の建築に大きな影響を与えた。

**《国立西洋美術館の価値》**

国立西洋美術館は、ル・コルビュジエが日本に残した唯一の建築作品。彼の作品のアジアへの影響の証左であるとともに、国立西洋美術館がアジアに与えた影響も大きい。

**建築によるアイデア(思想)の具現化**

ル・コルビュジエの作品は、「近代建築運動」という顕著な普遍的価値を有する思想と直接関連している。

**《国立西洋美術館の価値》**

国立西洋美術館については、平面計画、動線計画、空間構成などに渦巻き状に建築を拡張できる「無限発展美術館(※2)」というル・コルビュジエの建築的思想が顕著に示されている。

※1「評価基準」は、世界遺産委員会が定める「世界遺産条約履行のための作業指針」に明示されている。世界遺産登録には、一つ以上の基準を満たしていることが必要。なお、評価基準の(ⅱ)(ⅵ)の日本語表記は仮訳。

※2「無限発展美術館」とは、ピロティから建物の中心に入り外側に向かって螺旋状に順路をとり、作品の増加に伴い展示スペースを延長して無限に発展することができるなど、ル・コルビュジエの様々なアイデアがちりばめられたもの。「無限成長美術館」と訳すこともある。

### 構成資産数の変更

構成資産の再検討を行った結果、フランスの「ジャウル邸」と「スイス学生会館」、スイスの「ジャンヌレ邸」の計3資産を除外するとともに、インドの「チャンディガールのキャピトル・コンプレックス」を追加し、構成資産数を前回推薦時(6カ国19資産)から7カ国17資産に変更しました。

### 緩衝地帯の範囲の見直し

イコモスからの指摘(緩衝地帯は東側が狭い等)を踏まえ、緩衝地帯(※3)を、国立西洋美術館の東側地域を含めた範囲に拡大しました。

緩衝地帯の拡大範囲については、台東区景観計画(平成23年策定)で、良好な景観形成を図る地域として指定している「上野恩賜公園周辺景観形成特別地区(Aゾーン、Cゾーン)」と同様の範囲としました。

※3 緩衝地帯(バッファゾーン)とは、資産の効果的な保護を目的として、資産周辺の環境や景観を保護するために設けられる区域。

## ～台東区からのお知らせ～

### 国立西洋美術館「大茶会」のご案内

- **日時：3月23日(月曜日)**
  大茶会　午前11時～午後3時
  式　典　午後12時～
- **会場：国立西洋美術館　前庭**
  (東京都台東区上野公園7-7)
- **参加費：無料**
- **特設会場にて野点(のだて)を行います。**
- **どなたでも参加し、お茶を楽しんでいただけます。**

★大茶会開催中に限り、常設展示を無料でご覧いただけます。

主催：国立西洋美術館世界遺産登録上野地区推進委員会、国立西洋美術館
後援：台東区、台東区商店街連合会、上野観光連盟
協力：台東区華道茶道文化協会

【問い合わせ】 国立西洋美術館
☎03-5777-8600
(ハローダイヤル)

台東区　世界遺産登録推進キャラクター

コルビおじさん

台東くん
コルビおじさんバージョン

※使用については下記にお問い合わせ下さい。
世界遺産登録推進室　TEL 03-5246-1082

## ル・コルビュジエってどんな人？【Le Corbusier 1887－1965】

©国立西洋美術館

本　名：シャルル・エドゥアール・ジャンヌレ
(Charles Edouard Jeanneret)
生まれ：1887年10月6日スイス
(のちにフランス国籍となる)
※ル・コルビュジエという名前は、雑誌「エスプリ・ヌーヴォー」の中で用いたペンネーム

ル・コルビュジエは、時計職人である父親の家業を継ぐため、スイスのラ・ショー＝ド＝フォンの美術学校で彫刻や彫金を学びました。在学中、先生であるシャルル・レプラトニエから建築を学ぶことを進められ、建築家として人生の一歩を踏み出します。

その後、活動の場所をフランス・パリに移し、数多くの建物を設計しました。コルビュジエは、建築界のリーダーの一人として、20世紀の建築や都市計画に大きな影響を与えました。

コルビュジエは建築家として活動したほかに、絵画、彫刻などの芸術作品の制作や家具のデザイン、執筆活動などにも取り組み、多くの作品を残しました。

## ル・コルビュジエの建築を知るためのキーワード

### 新しい建築のための５つの要点

ル・コルビュジエは近代建築を成り立たせるための５つの要点を提案しました。

**1．ピロティ**
建物を柱で持ち上げて地上部分にできる吹き抜けの空間です。人も風も自由に出入りできる場所です。

**2．屋上庭園**
かつての瓦屋根ではなく、水平な屋上にすることで、植物を植えたり、日光浴を楽しんだりして、都会でも自然を感じることができます。

**3．自由な平面**
建物を支える壁と別に設けられた、空間を仕切る壁で作られる平面です。これによって自由な部屋をつくることができます。

**4．横長の窓(水平連続窓)**
柱や壁にじゃまされずに幅広く窓をあけて、光を部屋のすみずみにまでとり入れることができます。

**5．自由な正面(ファサード)**
建物を壁のかわりに柱で支えることによって自由にデザインできるようになった壁面のことです。

国立西洋美術館「建築探検マップ」より

### モデュロール

建築の寸法を決めるルールで、黄金比と身体のサイズを利用してつくった定規です。

たとえば、人(182.9㎝のヨーロッパの男性)が手をのばした高さ(226㎝)を住宅の天井にちょうどよい高さと定めました。このようにして、部屋、家具の大きさなども「モデュロール」で決めています。

## 国立西洋美術館ってどんな建物？

1910～20年代にかけて、当時、川崎造船所社長であった松方幸次郎が日本に西洋美術を紹介するため、ヨーロッパ各地で絵画、彫刻等の美術作品を収集しました。これらは「松方コレクション」と呼ばれています。

第二次世界大戦後、一時フランス政府の所有となった松方コレクションは、昭和28(1953)年、新しい美術館を作ることなどを条件に返還されることになりました。

新美術館の設計には、世界的な建築家ル・コルビュジエが選ばれました。コルビュジエは、昭和30(1955)年11月に日本を訪問し、上野公園内の建設予定地を調査しました。コルビュジエが作った設計図をもとに、コルビュジエの弟子である前川國男、坂倉準三、吉阪隆正の３人が協力して美術館の建設を行いました。

そして、昭和34(1959)年３月に美術館は完成し、同年６月10日に開館しました。

国立西洋美術館は、平成19(2007)年、国の重要文化財に登録された貴重な建物です。

### ― 建物の特徴 ―

- モデュロール、正方形の平面形状、らせん状の回廊、展示品の増加に伴い渦巻きのように増床できる平面計画など、「無限発展美術館」の構想を具現化した建物です。
- ピロティ、陸屋根、柱で床を支える構造など、ル・コルビュジエによる近代建築の特徴的な要素がとても良く表現されています。

©国立西洋美術館
国立西洋美術館本館 2階展示室